

1 研究主題

子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む手だての研修を深める。

2 研究の概要

研究主題をもとに、授業研究、器楽実技講習、合唱指導・実技講習の3回の研修を行い、楽しい音楽活動への手だてを探った。

3 研究の実際

(1) 授業研究について

6月、五泉市立五泉南小学校において、石本あさひ教諭による授業をもとに、研究を行った。

授業者は、音楽を楽しむ感性や表現する技能を高めたいという願いをもって指導を行っている。本時は、「ことばでりずむあそびをしよう」という課題を設定し、児童から出された言葉をリズムに当てはめ、四分音符と八分音符の違いについて手拍子を打つことで確かめていく授業を展開した。その際、休符も意識させるように、休符の動作を入れた。そのことにより小節やフレーズの意識をもたせることができた。児童が活動する前に、まず授業者の好きなものを絵と言葉でいくつか提示し、それをリズム絵譜に当てはめ、全員でリズム打ちして言葉とリズムが合っているか確かめた。例示があったので、子ども達は大変意欲的に楽しく言葉とリズムを関係づけさせていた。



協議会では、休符の表現方法はどのようなものがよいのか、一音が一文字とは限らず二文字の言葉もあるので、その扱いをどうするかについてはあらかじめ児童と確認しておく、より安心して活動に取り組ませることができたのではないかと、等の意見が出された。音楽づくりの基礎となる言葉とリズムのつなげ方のあり方について、改めて考える機会となった有意義な研修になった。

(2) 器楽実技講習について

9月、金子順爾様を講師に迎え、器楽実技研修を行った。マレットとスティックの種類やそれぞれのもつ特性を教えていただいた。実際に楽器を用い、正しい持ち方、奏法の指導を受けた。児童に指導する際、マレットやスティックの正しい知識と奏法を指導者が理解し、演奏できることが大切であるという示唆をいただいた。楽曲の持ち味を生かす奏法の大切さを改めて確認するよい研修会となった。

(3) 合唱指導・実技講習について

10月、五泉市川東小学校において、関谷裕子様を講師に迎え合唱の研修を行った。前半は5年児童による「平和の鐘」の合唱を指導していただき、後半は部員自身が歌いながら指導を受けた。

関谷先生は、口に指を挟めてのどを開けることや、肋骨を開くイメージで身体一杯に息を入れること、おへそ周りに力を入れることなどについて分かりやすく歌い方を指導された。関谷先生の指導を受け、児童の歌声はみるみる変容していった。部員指導では、関谷先生から実演していただきながら実技講習を受け、合唱指導のこつを学ぶことができた。

4 成果と課題

3回の研修を通し、部員同士が意見交換や情報交換を行ったり、講師による指導をいただいたりして、授業改善への新たな手だてを見つけることができた。今後の授業の糧とし、子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む姿を目指していきたい。